

令和3年2月12日

(一社) 京都府保育協会会員園の皆様へ

(一社) 京都府保育協会
会長 楠 文範
京都府保育士会
会長 笠置 英恵

「みんなで考えたい保育事例🌀ファイル」の活用について

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、保育現場の皆さまにおかれましては、日々子どもの育ちを守るため尽力いただいていることと深く感謝申し上げます。

さて、京都府保育士会ではそんな感染症対策をしながら、保育の専門性を高めようとしている会員の皆さまのために、何か具体的な事が提供できないかと事例集を作成いたしました。

これは保育士会運営委員が提供した実際あった事例から作成しています。ご覧いただくとときどき何か思い当たるようなことがあるのではないかと思います。

この事例集のワークを通して、何かはっきりした答えが出るわけではないと思いますが、子どもに対する「この言動ってどうだろう?」「職員間の連携ってどうしたらいいだろう」など、きっと保育者の皆さまが日々の保育を振り返るきっかけになり、「保育の質や専門性の向上」につながるものと信じています。

全国保育士会編の「人権擁護のためのチェックリスト」(全国保育士会HPよりダウンロードできます)と共にぜひ園内研修等でお役立ていただければ幸いです。

★活用の仕方★

この事例集には、保育者の不適切な対応と見本となるような良い対応の両方を紹介しています。

- ① まず、どの事例で演習をするか決めてください。
- ② 次に、5人程度のチームを作り、その中でファシリテーター(演習をリードし、テーマに沿って発言を促す人)を決めてください。
- ③ チームでひとつの事例を読み合います。
- ④ 事例に対する自分の感想を書き込みます。
- ⑤ ファシリテーターを中心に意見を交流し合います。その際、演習のポイントを参考にしてください。演習中に出てきた意見に沿って、ポイント以外のテーマで話し合うことがあってもかまいません。
- ⑥ 意見が出尽くしたら、演習後の感想を書いてください。
- ⑦ 時間があれば、その感想も交流してください。

※1 演習をする際に自園で独自の事例を挙げていただくのも大変有意義なことです。その際はぜひ京都府保育士会にその事例をお知らせいただけたらありがたいです。